



////////////////////

**図書館と県民の
つとめ埼玉
2021
記録集**

////////////////////

埼玉県図書館協会

目次

- 司書が語る！ Live イベント ————— P1～2
- 中学生のビブリオバトル ————— P3～4
- 鈴木まもるさん講演会
「絵本と鳥の巣の不思議ー鳥の巣が教えてくれることー」 ————— P5～6
- 伊吹有喜さん記念講演
「『雲を紡ぐ』に込めた想いー人生に無駄な寄り道なしー」 ————— P7～8
- WEB展示（公共図書館部会） ————— P9～11
- WEB展示（高校図書館部会） ————— P12～14
- WEB展示（若手司書紹介） ————— P15
- WEB展示（大学図書館部会） ————— P16～18
- WEB展示（まとめ） ————— P19
- 協賛企業・プレゼント、後日配信 ————— P20
- 関係者名簿 ————— P21～22
- 開催要項、チラシ、WEB ————— P23～24

はじめに

図書館と県民のつどい埼玉は、皆様に「本に興味をもっていたきたい」、「図書館について知っていたきたい」という思いから始まったイベントです。図書館関係者と県内、県外からいらっしゃった多くの皆様がつどい交流する場として、毎年開催しております。

今回、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、会場での開催ではなくオンライン開催にて実施しました。会場での開催を楽しみにしてくださっていた皆様、誠に申し訳ございませんでした。

本冊子では、オンライン開催にて実施しました「図書館と県民のつどい埼玉 2021」の様子を紹介いたします。



Live イベント

司書が語る！ Live イベント

今回初の試みとなりました「司書が語る！ Live イベント」は、「スタッフと参加者の皆様が双方向で交流できる」「司書・図書館を身近に感じられる」「手軽に参加できる」ということをコンセプトに企画しました。

担当の司書が、番組ごとに設定したテーマにそって Zoom を使用し Live でお話しし、参加者の皆様からの質問をチャットで受け付けました。遠方の方も、Live で司書の話が聞けて質問できるという、オンライン開催の利点を活かしたイベントです。

12月11、12日の2日間、計5番組を配信し、想定以上の人数の皆様にご覧いただきました。アンケートでも、「司書の専門性が高いことがとても良くわかる内容ばかりで感動した」「今までオンラインでは伝わらないのではと思っていたが、案外よくわかった。よい企画だった」など好評でした。以下では、それぞれの番組について紹介します。

ぶらり、ゆったり、らいぶらりー

配信時間：12月12日（日）14:00～14:50

Live 配信は初めての試みのため、どのような内容にするか迷いましたが、WEB 展示とあわせて、ご自宅でゆったりと図書館の魅力を発見し、図書館に出かけていきたくなるようなものにしたと考え、展示作成者が各展示の見どころを紹介しました（展示詳細は P9～P11）。

■埼玉県立図書館みんなで作る

伊吹有喜さん著作展示

実際に WEB 展示の画面を表示しながら、著作の一覧や情報を紹介し、人気作品を選ぶウェブアンケートへの参加を呼びかけました。

■ブックケアー未来へつながらる保存の技術

修理の基本についてまとめた『本の修理きほんのき』の項目について、動画の一部を再生、道具の実物を投影しながら説明を行いました。視聴者の方の関心も高く、和紙の使い方等を中心に複数の質問が寄せられました。

■ほんで埼玉～図書館を発見しよう化計画～

図書館の普段は入れない場所にある機械や図書館の仕事などを紹介しました。また、県内市町村立図書館で行われるイベントの広報も行いました。

（記録：埼玉県立熊谷図書館 小熊 ますみ）

全部見せます！ バリアフリー資料

配信時間：12月12日（日）15:00～15:50

県立久喜図書館では、活字を読むことに障害のある方向けに、さまざまな障害者サービス用資料を所蔵しています。資料の貸出のほか、利用に関するご相談も承ります。どのような資料があるのかを実際に見ていただくために、この Live イベントを企画しました。

はじめにスライドを使い、点字資料、音声デイジー、マルチメディアデイジー、布の絵本、LL ブックを紹介しました。資料の入手方法としては、①県立図書館から借りる、②最寄りの市町村立図書館から借りる、③障害のある方が自らダウンロードするなどの方法があります。

続いての実演タイムでは、布の絵本『キャンプにいこう』、点字図書『健康・医療情報リサーチガイド』、点字ディスプレイ、音声デイジー『日本古代の歴史 6』などを紹介しました。実演を見ていただくことで、WEB 展示やスライドでは伝えきれない、各資料の特徴を理解していただけだと思います。

（記録：埼玉県立久喜図書館 大島 恵津子）

高校図書館をのぞいてみよう その1

配信時間：12月11日（土）10:00～10:40



東部Aネットワークに所属する9校（越ヶ谷高校、越谷東高校、越谷西高校、越谷南高校、越谷北高校、越谷総合技術高校、草加東高校、獨協埼玉高校）の図書館を紹介する Live イベントです。

事前に東部 A ネットワークに所属する各校から集めておいた写真とコメントをスライドにまとめて Zoom で紹介しました。

最後には質疑応答の時間も設けて、たくさんの質問や感想をいただきました。

図書館と県民のつどい埼玉 2021 における Live イベントのトップバッターとして、緊張しながらのスタートとなりましたが、最大視聴者数 72 人、合計視聴者数 95 人と、多くの方に見ていただくことができました。

高校図書館をのぞいてみよう その2

配信時間：12月11日（土）12:30～13:10



東部Cネットワークに所属する10校（草加高校、草加西高校、草加南高校、八潮高校、八潮南高校、三郷高校、三郷北高校、三郷工業技術高校、松伏高校）の図書館を紹介する Live イベントです。

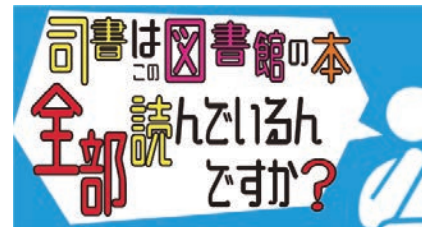
事前に「正門から見た校舎」「図書館全景」

「カウンター」「お気に入りの場所」「普段は見られないとっておきの場所」などの写真と、「〇〇高校司書に質問」などの様々なコメントを東部 C ネットワークに所属している各校から集め、これをスライドにまとめて Zoom で紹介しました。

最大視聴者数は 82 人、合計視聴者数は 99 人で、進行担当の2人の掛け合いも面白く、1校の紹介が終わるごとにたくさん質問や感想が飛び交い、とても活気のある Live イベントになりました。

司書はこの図書館の本、全部読んでいるんですか？

配信時間：12月12日（日）13:00～13:50



3名の司書によるブックトーク企画です。

ある司書は「飛行機」、別の司書は「旅」、もう一人の司書は「肉」というテーマで、分類番号を切り口に次々と本を紹介し、司書の技の鮮やかさに視聴者からは感心の声が止まりませんでした。

おまけの「紙」のブックトークを含めると、1時間弱のイベントのなかで紹介された本は40冊にも上り、その全てについて書影の使用等の著作権許諾を得るなど、入念な準備のもとに行われた Live イベントでした。

イベント終了後には、紹介した本をまとめたブックリストも公開されました。

最大視聴者数は 100 人に達し、合計視聴者数は 119 人でした。総コメント数も 350 件以上と大盛況で、目立ったトラブルもなく、自由参加型の Live イベントとしては最も賑わったと思います。

（記録：埼玉県立松伏高等学校 玉井 敦）

ビブリオバトル

中学生によるビブリオバトル

県内の中学生を対象にビブリオバトル（知的書評合戦）を実施しました。「図書館と県民のつどい埼玉」では、今回で7回目になります。埼玉県内のビブリオバトル普及委員会を中心に実行委員会を組織して運営にあたっています。

ビブリオバトルとは、バトルと呼ばれる発表者がおすすめの一冊を持ち寄り、5分間で本の紹介をし、参加者からの質問を2～3分で受け、その後「どの本が読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めた本「チャンプ本」を決定する、書評ゲームです。

今回は新型コロナの感染状況を鑑み、Zoomのウェビナー機能を使用した、オンライン開催にて実施し、YouTubeによる後日配信も行いました。

予選会の様子

7月に県内の全中学校に予選会のお知らせをお送りし参加者を募集しました。オンライン開催が初めてであったことや、中学校も新型コロナの対応で多忙であったことから、参加申込があるか危惧しておりました。しかし、想定を大きく上回る、計14校29名と、過去最高の参加者数となりました。11月13日（土）に予選会を行い、6名の決勝出場者を選出しました。



※予選会集合写真

参加された生徒や先生からは「どの本も面白

そうでいろんな本について聞いて楽しかった」「文芸部員が1人のため、県内の多くの生徒と本を通して活動できたことが何よりよかった」などの感想をいただきました。

決勝の様子

決勝戦は「図書館と県民のつどい埼玉 2021」開催期間の12月11日（土）に実施しました。出場した生徒と紹介した本は以下のとおりです。

大下 陽翔さん（久喜市立栗橋西中学校）
『100日間おなじ商品を買続けることでコンビニ店員からあだ名をつけられるか。ピスコをめぐるあたたかて小さな物語』
与謝野 著（光文社）

吉野 喜恵さん（開智未来中学校）
『きつねのおきやくさま』
あまんきみこ ぶん 二俣英五郎 え（サンリード）

栗原 理子さん（大妻嵐山中学校）
『本日は、お日柄もよく』
原田マハ 著（徳間書店）

細矢 真央さん（新座市立第三中学校）
『ハリー・ポッターと賢者の石』
J.K. ローリング 作 松岡佑子 訳（静山社）

鶴 舞羽さん（開智未来中学校）
『ラスト・ゲーム～バスケ馬鹿の君に捧ぐ』
高倉かな 著（スターツ出版）

久保村 奈々さん（新座市立第三中学校）
『僕らだって扉くらい開けられる』
行成薫 著（集英社）

※発表順

投票の結果、栗原 理子さんが紹介した『本日は、お日柄もよく』が見事チャンプ本に選ばれました。観戦された方からは「発表者の表情までよく伝わってくるのは、オンラインのよさだと感じました」などの感想をいただきました。

最後に、御担当の先生方、保護者様、関係者の皆様、参加に御協力・御尽力いただき、誠にありがとうございました。

（記録：埼玉県立熊谷図書館 相馬 一行）

予選会の紹介本一覧

- 宮田 優希さん（蕨市立第一中学校）
『アバター』
山田悠介 著（角川書店）
- 高橋 彩華さん（加須市立北川辺中学校）
『いちご同盟 純愛 - 中学編』
三田誠広 著（集英社）
- 本澤 栞さん（新座市立第三中学校）
『失われたものたちの本』
ジョン・コナリー 著 田内志文 訳（東京創元社）
- 勝野 峻祐さん（さいたま市立与野南中学校）
『君が笑うまで死ぬのをやめない 雨城町デッドデッド』
佐藤悪糖 著（講談社）
- 山口 碧さん（所沢市立北野中学校）
『獣の奏者』
上橋菜穂子 作（講談社）
- 山中 泉美さん（星野学園中学校）
『コララインとボタンの魔女』
ニール・ゲイマン 著 金原瑞人, 中村浩美 訳
（角川書店）
- 多田 正磨さん（加須市立北川辺中学校）
『子どもたちへ 夜回り先生からのメッセージ』
水谷修 著（サンクチュアリ・パブリッシング）
- 金子 陽さん（春日部共栄中学校）
『5分後に意外な結末 ベスト・セレクション』
桃戸ハル 編・著（講談社）
- 北村 優衣さん（所沢市立北野中学校）
『深夜廻』
日本一ソフトウェア 原作 黒史郎 著（PHP 研究所）
- 藤田 悠聖さん（春日部共栄中学校）
『「繊細さん」の本「気がつきすぎて疲れる」が
驚くほどなくなる』
武田友紀 著（飛鳥新社）
- 稲見 青海さん（鴻巣市立鴻巣西中学校）
『種まく子供たち 小児がんを体験した七人の物語』
佐藤律子 編（ポプラ社）
- 井上 葵さん（鴻巣市立鴻巣西中学校）
『中学生に贈りたい心の詩 40』
水内喜久雄 編著（PHP 研究所）
- 小山 紗世さん（開智未来中学校）
『七夜物語（上・下）』
川上弘美 著（朝日新聞出版）
- 外山 航平さん（鴻巣市立鴻巣西中学校）
『ナミヤ雑貨店の奇蹟』
東野圭吾 著（角川書店）
- 中村 心乃花さん（三郷市立栄中学校）
『ふしぎ駄菓子屋銭天堂 11』
廣嶋玲子 作（偕成社）
- 今村 遥徒さん（鴻巣市立鴻巣西中学校）
『プリンセス・トヨトミ』
万城目学 著（文藝春秋）
- 新井 りりあさん（星野学園中学校）
『ぼくらの七日間戦争』
宗田理 作（角川書店）
- 荒川 陽咲さん（春日部市立武里中学校）
『母性』
湊かなえ 著（新潮社）
- 富松 ひなたさん（開智未来中学校）
『滅びの前のシャングリラ』
凧良ゆう 著（中央公論新社）
- 加川 結海さん（春日部市立武里中学校）
『三日間の幸福』
三秋縋 著（KADOKAWA）
- 大原関 悠さん（吉川市立中央中学校）
『モモ』
ミヒヤエル・エンデ 作 大島かおり 訳（岩波書店）
- 関 彩花さん（星野学園中学校）
『流星の絆』
東野圭吾 著（講談社）
- 梅沢 音々さん（星野学園中学校）
『私は私のままで生きることにした』
キム・スヒョン 著 吉川南 訳（ワニブックス）

※決勝出場者除く、タイトル五十音順

講演会

鈴木まもるさんによる講演会
絵本と鳥の巣の不思議

— 鳥の巣が教えてくれること —

講師：鈴木 まもる さん（絵本作家、鳥の巣研究者）

■はじめに

鈴木まもるさんは、1952年東京生まれ、1986年より伊豆に在住し、画家・絵本作家として創作活動を続けていらっしゃいます。

代表作には、『せんろはつづく』（金の星社）などがあり、『どこからきたの？おべんとう』（金の星社）は、2021年度第67回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書にも選ばれました。また、鳥の巣研究にも尽力され、鳥の巣の展覧会も行なうなど、精力的に活動されています。今回は伊豆のアトリエからオンラインで講演していただきました。

■絵本のこと

子どもにとって、お母さんの膝の上で一緒に本を読むことは、かけがえのないものです。親子で物語の世界を分かち合うことで、子どもは安心感を覚えます。そして、分かち合った世界から、生きていく上で必要な力を得るのです。ですから、ぜひ、子どもが面白い、うれしいと感じる本を、絵本に近い距離で楽しんでください。その経験こそ、子どもが本を好きになるきっかけになると思います。

ぼくは、みんなと同じことをし続けたり、決められたことをやらされたり、歴史を暗記したり、数字を計算することが苦手な子どもでした。学校の点はよくありませんでした。でも学校がすべてではありません。子どもたちそれぞれの良さを認め温かく見まもってあげてください。自然に育ち、その子なりの生き方、成長をしてほしく、いろいろな表現の絵本を描いています。

■鳥の巣研究者になった理由

ぼくは伊豆の山の中でくらしているのですが、ある日、藪の中に鳥の巣が落ちているのに気が付きました。それ以来、様々な鳥の巣を発見し、持ち帰るようになりました。

いざ何の鳥の巣か調べようとしたのですが、図書館にも、書店にも、図鑑はあるのに鳥の巣に関する本はありませんでした。

ぼくは絵本作家なので、鳥の巣の形や造形に興味を湧きました。また、鳥がどのように巣をつくるのか、想像がつかず、ますます鳥の巣について知りたくなりました。

鳥の巣を知るということは、鳥のくらしを知るだけでなく環境を知ること、多様な生き方を知ることでした。鳥類学者を訪ねたり、日本だけでなく海外の鳥の巣も探しに行き、その魅力を伝えたく、絵本を描いたり鳥の巣の展覧会をするようになりました。こうして、鳥の巣研究者と呼ばれるようになってしまいました。

■質問を受けて

ここで、事前に頂いた質問についてお答えしようと思います。

（質問1）絵本作りのアイデアはどのように考えるのですか？

本によって様々です。暮らしの中で、描きたいものが自然とまとまってできる場合もあれば、『あるへラジカの物語』（あすなろ書房）のように、1枚の写真を見て感じたことをまとめる場合もあります。

（質問2）乗り物絵本についてのおはなしが聞きたいです。

子どもたちの中には、乗り物の絵本が大好き！という子も多いと思います。これは、身近なくらしへの本能的な興味だと思います。ヒーローにあこがれるのも同じで、自分が暮らすテリトリーを広げたい、守りたいという気持ちに起因していると思います。

絵本は、ページをめくって、ある世界に入っていくことだと思います。その絵本が好きになるということは、自分自身の生き方を見つけることだとも思います。世の中の多様な生き方が感じられ、嬉しくなるような絵本を描きたいです。

■鳥の巣について

鳥は、小型恐竜が大型恐竜の捕食から逃れ、安全に子孫を残すために進化した姿です。飛ぶためには、体が軽量である必要があるため、鳥は人間のように体内で子どもを育てることはせず、卵を産みます。しかし、卵と孵化したヒナは外敵に食べられてしまうので、安全に守る場所が必要です。これが鳥の巣というわけです。つまり、鳥の巣は鳥がくらす家ではなく、ヒナが巣立つまでの間、ヒナを守る子宮の様な場所なのです。

■鳥の巣の作り方

それでは、鳥はどのように巣を作るのでしょうか？鳥は卵が転がらないように、卵を産み落とす場所を囲むように、円を描くように材料を配置します。

卵から孵ったヒナの状態は鳥によって違います。卵から孵った後、ヒナがすぐに歩き出すような鳥（早成性）もいれば、まだ毛も生えていない未熟な状態で孵る鳥（晩成性）もいます。後者の鳥の巣は、孵化した後もヒナを守るように、お椀のような形になります。また、上から敵に狙われる場所に巣がある鳥は、さらに卵やヒナを囲うため、球状の巣を作ります。寒い地域には、羽毛や羊毛を用いた鳥の巣もあります。

このように、鳥によって、安心して卵を産める環境は異なるため、巣の形だけでなく、材料も様々なものが使われ、結果として多くの種類の鳥の巣が出来上がるわけです。

■巣箱の観察

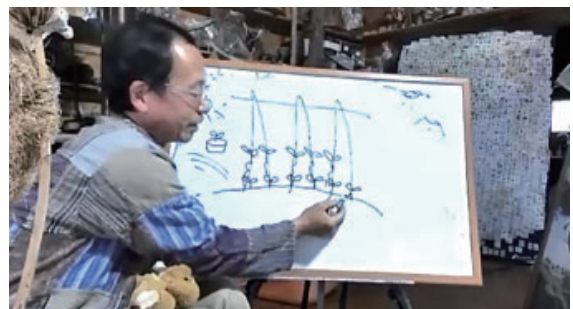
鳥の巣箱をかけたことのある方はいるでしょうか？ぼくは、巣箱の中の様子が知りたくて、ガラス窓の外側に直接巣箱を貼り付けて、室内の小さな観察穴から巣の中を見てみることにしました。（『巣箱のなかで』）

親鳥は、かわるがわるヒナにえさを運び続けていました。やがて、ヒナが巣立つ頃、親鳥たちは、あえてえさを巣箱に運び入れることはせず、外の枝からヒナたちに呼びかけていました。中には臆病なヒナもいて、なかなか外に飛び出してきません。けれども、親鳥たちは決して急がず、ヒナが外に飛び立つのを誘い、待っていました。ようやくヒナが飛び出すと、親鳥はやっとえさを与えました。こうして外の世界で生きることを教えていくのです。ぼくはこの光景をみて、自分で生きていく力を身に着けるという点において、鳥も人間も同じであると感じました。

■おわりに

鳥の巣を研究していると、鳥のくらしや生き方など、どんどん興味関心が広がっていきます。鳥の生き方には、人間に相通ずる点が多いことに気が付きました。

子どもたちは自分で面白い、と思ったことはどんどん知りたがると思います。それこそ本当の学びだと思うのです。ぜひ、子どもたちを温かく見守ってください。自分が面白いと思うことを実際の世界と本で調べていくことが、その子が生きていく力になるはずですよ。



（記録：埼玉県立久喜図書館 家根本 ありか）

記念講演

伊吹有喜さん記念講演

『雲を紡ぐ』に込めた想い

ー 人生に無駄な寄り道なしー

記念講演は、作家の伊吹有喜さんにお話しいただきました。埼玉県立浦和第一女子高等学校の木下通子さんが聞き手となり、ZoomでLive配信及び後日配信を行いました。



左：木下さん 右：伊吹さん

『雲を紡ぐ』に込めた想い

木下 素敵なお召しですが、『雲を紡ぐ』(文藝春秋)に登場するホームパンですか。

伊吹 はいそうです。主人公の高校生、美緒ちゃんがお守りのようにもっていたホームパンです。この作品を書くときに、実際に工房の先生に作っていただきました。物ってというのは買ったときが一番素敵で、だんだん古びていきます。しかし、ホームパンは逆で、使えば使うほど魅力を放ちます。親子孫と3代がずっと愛用できます。そんな心惹かれるホームパンを作っている職人の物語を読みたいと思ったのがきっかけで書き始めました。

木下 おじいちゃんのセリフがすごく素敵ですよ。

伊吹 おじいちゃんには本当にいいことを言っていますが、実は完璧ではなくて、息子やおばあちゃんとの心の行き違いなど、いろんな後悔と悲しみが降り積もって、美緒ちゃんに優しくできているというふうにとらえています。なので、

美緒ちゃんももっとちっちゃい頃におじいちゃんのところに行っていたら、もっと当たりが強かったかもしれません。

木下 絶妙のタイミングだったんですね。

自分のいいところを探してみる

伊吹 『雲を紡ぐ』の中でとても好きな箇所があって、美緒ちゃんにおじいちゃんが「本当に自分のことを知っているか？何が好きだ？どんな色、どんな感触、どんな味や音、香りが好きだ。何をするとお前の心は喜ぶ？心の底からわくわくするものは何だ」って問いかけるんです。悪いところばかり見ていないで自分の良い点も探してみたらどうだと言うんです。皆さんも嫌なところ、欠点は気になって、いくらでも出てくるとは思うんですけど、意外と自分のいいところは出てきません。自分のことを自分で思う分には別に謙遜しなくていいので、いいところにスポットを当ててあげるといいと思います。

レファレンスサービスは執筆の友

木下 図書館は利用されますか。

伊吹 図書館のレファレンスサービスは最高ですね。執筆していると疑問がいっぱい湧きます。今は編集者さんも協力してくださるんですが、アマチュア時代は全部一人で調べます。図書館で「こういう事情でこれが知りたいんです」って言うと、司書さんが地の果てまで探して、素晴らしい情報を次から次へと集めてくださいます。

木下 すごく嬉しいです。図書館関係者も励まされるとと思います。

伊吹 まだプロになっていないアマチュアの自分の作品に、ここまで熱心に調べてくださる方がいるっていうのは、涙が出るほど嬉しかったです。インターネットの調べものもいいですが、自分のフィルターで情報を拾うことになります。他の方が調べてくれると思わぬ角度からの提案があり、自分の持っている世界がさらに2倍3倍に広がっていくので、すごくおすすめです。

少女雑誌のイベント運営を担当

木下 いつ頃から小説家になりたいと思われたのですか。

伊吹 小学校2年生の時には絶対小説家になると文集にも書いていました。しかし大人になるにつれて自分の周りに小説家もおらず、自分にとって遠い世界の話だと諦め、手に職をつけようと思い法学部に行きました。司法試験はダメでしたが出版社に採用され、就職を決めました。

木下 編集の仕事をされていたのですか。

伊吹 それが「よっしゃ編集者になるぞ」と思ったら、少女雑誌のイベントを運営する部署に配属になりました。ファッションのことなど分からなくて半分泣き暮らしていました。しかし、少女雑誌に寄せる読者の熱ってすごいです。モデルさんに会うためにイベント開始の6時間前から会場に並んだり、そんな読者の熱と編集部の熱というものをその時すごく感じとりました。それが実は後に『彼方の友へ』（実業之日本社）という少女雑誌の編集部の話を書くときにとっても活かされました。

木下 本当に無駄なことがないんですね。

伊吹 そうですね。その仕事をしている時に、シナリオの勉強を始めました。シナリオって小説と違い起承転結をつけて次回も見てねという盛り上げ方のメソッドがちゃんとあります。後に小説を書き始めるのですが、シナリオで勉強したことが全て活かされました。今まで小説は途中までしか書けなかったのが、初めて最後まで書けるようになりました。

作家デビューは39歳

伊吹 それからシナリオの賞に応募するようになり、創作の魅力に取り付かれ、出版社の仕事に名残はありましたが、28歳の時に会社を辞めました。その後、フリーランスのライターの仕事をしながらか創作活動を続け、30歳の時にようやく小説を書き始めました。

木下 それからどれくらいでデビューされたのですか。

伊吹 それが10年かかっちゃいました。最初の長編小説を書くのに3年かかりようやく完成しましたが受賞とはならず、また振り出しに戻って、2作目が2年半ぐらいかかりました。それでもだんだんと1つの作品を書く期間が短くなって、1年半ぐらいで書けるようになったとき、デビューが決まりました。

木下 伊吹さんのへこたれない気持ちはどこから生まれてくるのでしょうか。

伊吹 やっぱり好きだという一念にあると思います。好きで好きで離れられない、執念みたいなものだったのかもしれない。



心を支えられた詩

木下 最後に、皆様にメッセージをいただけますか。

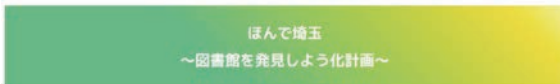
伊吹 本日は図書館のイベントなので、愛読書の話をしたと思います。応募作が落選するたびに自分の心を支えてくれた詩があります。『黒田三郎詩集（現代詩文庫）』（思潮社）の「紙風船」という詩です。「落ちてきたら 今度はもっと高くもっと高く 何度でも打ち上げよう 美しい 願いごとのように」小説って、読んでくださる方に楽しい時間を過ごしてほしいという気持ちで作者たちは書いています。いわば美しい願い事です。これからも、美しい願い事はたとえ何度落ちてきても、もっと高く、もっともっと高く打ち上げていこうと思います。

（記録：埼玉県立熊谷図書館 相馬 一行）

公共図書館部会による展示

ほんで埼玉

～図書館を発見しよう化計画～



「ほんで埼玉～図書館を発見しよう化計画～」の展示へようこそ。「ほんでって何?」「方言?」「どこかに飛んでいったらどう?」など、今この文章を読んでいるみなさんの頭の中には、ハテナがいっぱい浮かんでいることでしょうか。この展示の目的は、実はサブタイトルに書いてあります。そう、図書館を発見することです。図書館について知らなかったことを新たに知る、なんとなく知っていたことをより深く知る、よく知っていることを改めて確認する。これらすべてが発見です。みなさんからは見えない図書館の仕事、この機会にぜひ知ってほしい内容をご紹介したいと思います。この展示を見て、ほんで(=それで)埼玉の図書館について何らかの発見をしていただければ幸いです。

■はじめに

この WEB 展示を作成するにあたり意識したのは、読んで楽しめるものにするということでした。展示のテーマを「図書館を発見すること」に設定し、普段は入ることができない場所やみなさんに知ってほしい図書館の仕事を紹介するという内容にしました。

■構成について

WEB 展示の構成は以下のとおりです。

- ・ 図書館にある機械
- ・ はたらく くるまち
- ・ つながり助けあう埼玉の図書館
- ・ 郵便物が図書館の資料に!?
- ・ 図書館の資料になるために
- ・ 普段は入れない部屋と、そこにあるもの
- ・ 図書館サービスにおけるミッションの事例
- ・ 図書館は 便利なツールを 作ってる
- ・ おわりに

普段見ることができないものとして、図書館にある機械を最初に紹介しました。

次に「運ぶ」というテーマではたらくくるま、図書館協力ネットワーク、郵便物の項目を並べました。郵便物がどうなるのかということ「図書館の資料になるために」の項目で紹介し、本以外の図書館資料を知ってもらうために「普段は入れない部屋と、そこにあるもの」の項目で映写室と 16 ミリフィルムを取り上げました。

「図書館サービスにおけるミッションの事例」と「図書館は 便利なツールを 作ってる」の項目は、みなさんから見えないうちで図書館

はどういうことを考え、どういう仕事をしているのかを知ってもらいたくて作成しました。この WEB 展示でご紹介したのはあくまでひとつの例なので、お近くの図書館ではどういうことをやっているのかも興味があれば見てみてください。

■工夫した点

この WEB 展示は、ブログを書くようなイメージで作成しました。読んで楽しめるように文章をメインにし、写真があったほうがわかりやすいところには写真を入れました。また WEB 展示では動画を入れることもできるため、本をフィルムコーティングするときの様子を撮影した動画を入れました。

公共図書館部会の展示であるため、紹介する内容が特定の図書館のことに偏らないよう留意しました。どこの図書館で働いている人でも、読めば思い当たることがあるという展示を目指しました。図書館ではよくあることだけど、それを知らない人が見れば発見になるという展示を理想とし、様々な人が読むことを想定して親しみやすい文体にしました。この展示を見たことで、図書館について何らかの発見をしてくれていたら嬉しいです。

■おわりに

今回は県立図書館の職員のみで展示を作成することになりましたが、来年はぜひ市町村立図書館の職員とも協力して作成したいと思います。

最後になりましたが、この展示を作成するにあたってご協力いただいたみなさま、この展示を見てくださったみなさまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

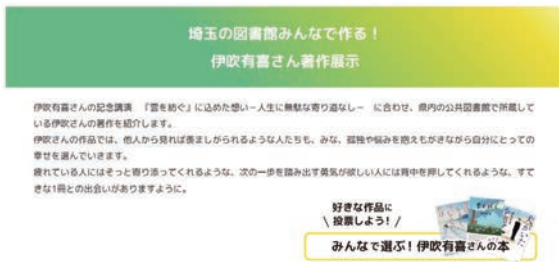
(記録：埼玉県立熊谷図書館 小柳 直士)

埼玉の図書館みんなで作る!

伊吹有喜さん著作展示

例年会場で行われている著作展示もウェブページでの開催となりました。来場者に実際に手に取ってもらうことができない環境で、どのように「展示」するのか頭を悩ませましたが、以下のとおり「伊吹有喜さん著作一覧」、「伊吹有喜

さんの作品をよもう」の2段構成としました。



前半の「伊吹有喜さん著作一覧」では、令和3年12月時点で出版されている著作、第三回ポプラ社小説大賞特別賞を受賞したデビュー作の『風待ちのひと（2008）』をはじめ、ドラマ・映画化された『四十九日のレシピ（2010）』や、直木賞候補となった『ミッドナイト・バス（2014）』『彼方の友へ（2017）』『雲を紡ぐ（2020）』など、14作品について、書誌情報や書影に、物語のあらすじをまとめた100文字程度の紹介文を併せて掲載しました。

後半の「伊吹有喜さんの作品をよもう」では、紹介した著作を実際の利用につなげるための情報をいくつか掲載しました。

まずは、著作展示をご覧になった方が、図書館で読みたい著作の所蔵の有無を確認できるよう、県内の公共図書館等の蔵書を一度に検索することができる「埼玉県公共図書館横断検索」のウェブサイトを紹介しました。

また、著作リストを作成し、PDFファイルダウンロードできるようにしたり、県立久喜図書館で実施した著作展示の様子を紹介したりし、ウェブから実際に図書館へ足を運んでもらえるようなページの構成にしました。

そのほかにも、参加型のコンテンツとして「みんなで選ぶ!伊吹有喜さんの本」と題し、ウェブアンケートツールを用いた人気投票を12月11日から翌年1月3日まで実施しました。結果は以下のとおりです。

- 1位『雲を紡ぐ』
- 2位『四十九日のレシピ』
- 3位『彼方の友へ』

『今はちょっと、ついてないだけ』

たくさんの投票とともに皆様の熱い思いが伝わるコメントをいただきました。

最後に、オンラインで開催した展示をご覧いただいた皆様に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

（記録：埼玉県立久喜図書館 小林 千草）

ブックケア 未来へつながる保存の技術

オンライン開催のため、ブックケアでは、動画も活用しWEB展示を行いました。



埼玉県立図書館では、修理の材料や道具、基本的な修理方法について、イラスト付きで分かりやすくまとめたチラシを『本の修理 きほんのき』と題して、11項目に分けて概要を説明しています。

「ブックケア」のWEB展示では、この「きほんのき」のPDFファイルに加え、7本の動画や4つの補足資料を用いて、基本的な修理の方法や材料、道具などについて紹介しました。

掲載した動画は、日頃から県立久喜図書館で補修作業を行っているボランティアの協力も受けて、手元のみを撮影し、作成しました。

<ブックケア WEB 展示概要>

きほんのき	動画	資料
その1 本のなりたち		○
その2 とりあつかい		外部リンク
その3 道具のこと	○	
その4 材料のこと	○	
その5 やぶれをなおす	○	○
その6 かたちをなおす		○
その7 ページがとれたら		外部リンク
その8 ページがとれたら2		○
その9 表紙がはずれたら	○	
その10 ステップアップ		外部リンク
プラス1 平綴じ	○	
糸の通し方	○	
製本の流れの紹介動画	○	

<「きほんのき その9」の動画>



動画の無いものについては、リンクステッチの方法ややぶれの補修方法を紹介した PDF ファイルのほか、以下に紹介するような外部リンクによって補足の説明をしています。

*「日頃からできる本のケア」（埼玉県立図書館）

<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/post-6.html>

*「動画で見る資料保存：簡易補修」（国立国会図書館）

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/minorrepair.html>

なお、『きほんのき』は埼玉県立図書館ウェブサイトでも掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html>
(記録：埼玉県立久喜図書館 松山 裕輝)

読書のバリアフリー資料展

障害者サービス用資料について多くの方に知っていただくため、2017年から毎年「図書館と県民のつどい埼玉」に参加しています。今年は会場ではなくオンラインなので、関係ウェブサイトへの誘導も念頭に置いて展示を展開しました。以下、読書のバリアフリー資料展の概要を報告します。

■文字を大きく

大活字本・拡大写本と、拡大読書器を紹介しました。そのままの文字では読みづらくても、大きさやフォント等を工夫することで読みやすくなる場合があります。

■やさしく読める

LL ブックを紹介しました。LL とは、スウェーデン語の Lättläst の略語で、「やさしく読める (easy to read)」という意味です。LL ブックは、

「ハートフルブック」というウェブサイトにもサンプルがあります。<https://heartfulbook.jp/>

■耳で読む・指で読む

音声デジター、点字、ユニバーサル絵本を紹介しました。デジターは、アクセシブルなデジタル録音図書で、CD1枚に 50 時間以上を収録することができます。点字は印刷すると量が多くなりますが、最近では印刷する前の点字データをパソコン等で読む人が増えています。ユニバーサル絵本は、点字や絵の形に凸凹がついていて、目が見える人も見えない人も、一緒に楽しめる本です。

■さわって楽しむ

布の絵本を紹介しました。台紙が布でできていて、ボタンやファスナー等で取り外したり、動かしたりすることができます。「ぬののえほん」というウェブサイトで、さまざまな布の絵本を紹介しています。
<https://www.bf-ehon.net/nunonoehon>

■読む場所がわかる

マルチメディアデジターとリーディングトラッカーを紹介しました。読む場所の色を変えたり、隣の行を隠したりすることで、集中して読書を楽しめます。マルチメディアデジターの再生動画と教科書についてもリンクで紹介しました。

『ごん狐』

<https://www.youtube.com/watch?v=c4zqmWJm3Zk>

■もっと知りたい

文部科学省と厚生労働省で作成したリーフレットも参考になります。「誰もが読書ができる社会を目指して～読書のカタチを選べる「読書バリアフリー法」～」

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01304.html

今回の「読書のバリアフリー資料展」でご紹介した資料は、埼玉県立久喜図書館で所蔵しています。ご不明な点がありましたら、埼玉県立久喜図書館バリアフリー読書推進担当までご相談ください。

<https://www.lib.pref.saitama.jp/guidance/spnd/index.html>

(記録：埼玉県立久喜図書館 大島 恵津子)

高校図書館部会による展示

初めての完全オンライン開催

■はじめに

2021年12月11日(土)・12日(日)に、今年で15回目となる「図書館と県民のつどい埼玉 2021」が開催されました。

新型コロナウイルス感染防止のため、例年のような会場でのイベント・展示は行わない、はじめての完全なオンライン開催です。

はじめからオンライン開催を前提にスタートしたのは今回が初めてで、これまでにないことがたくさんありました。

いろいろなことが手探りで、たいへんなこともありましたが、以下のように、充実したイベントや展示が出そろい、たくさんの人に喜んでもらうことができたと思います。

<WEB 展示>

数字で見る高校図書館

ネットワーク展示写真帖

埼玉県推奨図書

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本
若手司書紹介 (県立図書館との合同展示)

<Live イベント>

高校図書館をのぞいてみよう その1

高校図書館をのぞいてみよう その2

司書はこの図書館の本、全部読んでいるんですか？

■準備について

2019年度から高校図書館部会の運営は地区ネットワークの持ち回りで行うことになり、今年度は東部C(主担当)と東部A(副担当)が担当ネットワークとして4名ずつ実行委員を選出し、実行委員会を立ち上げました。

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、

打ち合わせや情報共有には、電話やメールのほかGoogle Classroom、Google Meet、Zoomなどを活用した結果、実際に実行委員が顔を合わせて会議を行うことは1度もありませんでした。

第1回 2021年8月16日(月)

会場：Google Meet

内容：企画展示内容の検討

役割分担 ほか

第2回 2021年10月18日(月)

会場：Google Meet

内容：進行状況の確認

公式サイトについて ほか

その他 担当者打ち合わせ・リハーサルなど
会場：Zoom

2021年10月25日(月)

「司書はこの…」リハ

2021年11月11日(木)

「のぞいてみよう②」打ち合わせ

2021年11月12日(金)

「司書はこの…」打ち合わせ

2021年11月29日(月)

「のぞいてみよう②」リハ

2021年11月30日(火)

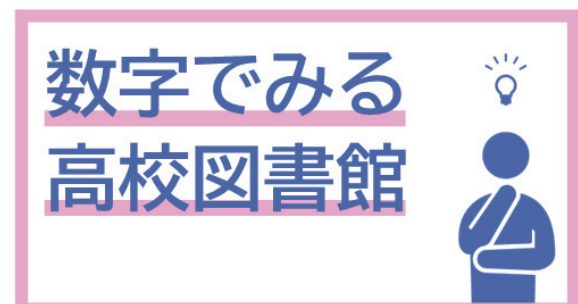
「のぞいてみよう①」リハ

「司書はこの…」リハ

例年のような前日準備などもなく、当日は各企画の担当者がそれぞれの場所から配信を行いました。

■WEB 展示について

① 数字で見る高校図書館



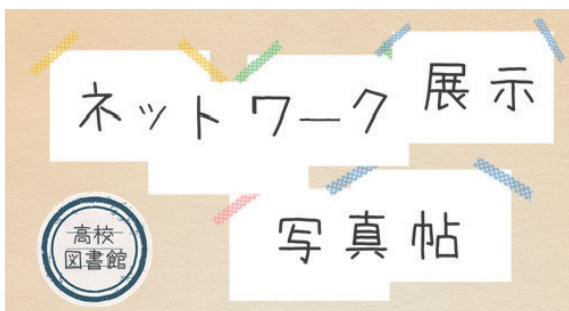
埼玉県高等学校図書館研究会(埼玉高図研)による学校図書館基本調査などの統計情報をもとに、埼玉県の高校図書館をわかりやすくインフォグラフィックス風に紹介するWEB展示です。

今回は、学校数、利用者数、平均蔵書冊数、平均貸出冊数、平均図書費、平均授業利用時間数など、12のテーマで埼玉県の高校図書館の現状を紹介しました。

数字だけを見ても、具体的な「量」を想像するのが難しい統計に対して、「このくらい」をわかりやすく示すことができました。

作成にあたっては、埼玉高図研白書委員会、レファレンス委員会、図書館協力委員会など、さまざまな研究・専門委員会にもアドバイスをいただきました。見やすく、わかりやすい展示になったと思います。

② ネットワーク展示写真帖



埼玉県には、17の高校図書館ネットワークが組織されており、情報交換や図書館資料の相互貸借などを行っています。ネットワーク活動は、埼玉県の高校図書館の大きな特徴の1つです。

今年度、高校図書館部会の運営を担当したのは、それら17あるネットワークのうちの2つで、越谷地区の高校図書館9校によって構成されている「東部Aネットワーク」と、草加・松伏・吉川・八潮・三郷地区にある、10校の高校図書館によって構成されている「東部Cネットワーク」です。

そこで、埼玉県の高校図書館ネットワークについて、わかりやすく解説するとともに、ネットワーク活動の具体的な例として、我々がやっている「ネットワーク展示」の様子を紹介するために、

「ネットワーク展示写真帖」というWEB展示を企画しました。

東部Aネットワーク、東部Cネットワークは、どちらもネットワーク展示を行っています。実施方法が異なります。

東部Aネットワークが1つの展示が各校を巡回して行く「巡回展示」という方法なのに対して、東部Cネットワークは、1つの展示テーマのもと、各校が独自に展示を作成する「ネットワークテーマ展示」という方法を取っており、そうした違いから、特色豊かで多様な展示の風景が集まりました。

展示風景は、内容によって「〇〇の世界」系、「タイトルと表紙インパクト」、「夜ふかし」と「おいしいもの」のススメ、「ひらがな」系と「色」しぼり、エトセトラ、という5つのジャンルに分け、展示されている資料リストと併せてアルバムに掲載しました。見ごたえのあるWEB展示になったと思います。

③ 埼玉県推奨図書



令和3年度埼玉県推奨図書に関するWEB展示です。埼玉県では青少年の皆さんに読んでいただきたい図書を埼玉県推奨図書として選定しています。

毎年、高校図書館部会が県民生活部青少年課と協力して行っている展示で、例年は会場図書展示を行っています。今年度は昨年同様にWEB展示として各種資料等を掲載しました。

掲載資料は、青少年課へのリンク、チラシ「令和3年度埼玉県推奨図書」「埼玉県推奨図書が決まるまで」「令和4年度埼玉県推奨候補図書応募用紙」などです。

例年、図書館と県民のつどい埼玉における会場展示は、埼玉県推奨図書に関する来場者のご意見を収集し、青少年課にお伝えできる貴重な場となっていました。オンライン開催であっても、WEB ページからの応募やアンケート回答などによって、そうしたことが少しでも継続できれば良いと考えています。

④ 埼玉県の高校図書館司書が選んだ

イチオシ本



埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本は、県内の高校図書館司書の投票によって、過去1年間に出版された本のなかから「高校生に読んでほしい本」ベストテンを決める、ブックランキングです。

有志の実行委員によって運営されており、「イチオシ本 2020」で 11 回目を迎えました。投票には例年 100 人以上の高校図書館司書が参加しており、毎年2月の発表後には、県内の書店や公共図書館で「イチオシ本フェア」が行われるなど県内に深く定着しています。

例年、その年の「イチオシ本」に選ばれた作品を会場で展示していましたが、今年度の図書館と県民のつどい埼玉は完全オンライン開催となったため、イチオシ本公式サイトへ誘導するバナーを掲載していただくという形での参加となりました。

実際にパンフレットや本を手にとっていただくことはできませんでしたが、公式サイトをご覧になった方が、「イチオシ本」の取り組みに、少しでも興味を持っていただけたら嬉しく思います。

■最後に

今回は、初めての完全オンライン開催ということで、これまでにない企画を、手探りで準備し、運営していくことになりました。

最初のうちは、どのくらいのことができるか不安もありましたが、実行委員全員が熱意をもって企画に取り組み、結果的に質・量ともに例年よりも充実したのではないかなと思えるほど、素晴らしい WEB 展示や Live イベントをお届けすることができました。

2年経っても、まだまだ収束する気配を見せないコロナ禍は、さまざまな物事を急速にオンライン化しました。

はじめて触れるために戸惑ったり、難しい、ややこしいと感じたりすることも、まだまだたくさんありますが、その反面オンライン化によって、これまでよりも簡単便利になったことも、たくさんあるように感じます。今回の図書館と県民のつどい埼玉には、例年では参加の難しい、他県の方・遠隔地の方の参加もたくさんありました。

来年にはこのコロナ禍が収まるのか、来年の図書館と県民のつどい埼玉がどんなふうで開催されることになるのかはわかりませんが、もしコロナ禍が収まったとしても、リモート会議やオンラインイベントは、続いていくのかもしれませんが。

「リアル」と「オンライン」の使い分けや共存は、今後の企画を考えるうえで、重要な視点になるのではないかと思います。

(記録：埼玉県立松伏高等学校 玉井 敦)

司書が魅せる！ WEB 展示

埼玉県の手司書紹介



埼玉県は実は司書王国。県立図書館と県立高等学校図書館に勤める司書の人数は全国有数です。古くから専門職として「司書」の採用があり、「司書がいるのは当たり前」な環境が整えられています。しかし、図書館をよく利用される方でも、司書の人となりや司書がどのような仕事をしているのか、御存知でない方が多いのではないのでしょうか。

そこで、今回、司書について皆様にもっと知っていただき、図書館をもっと身近に感じていただきたく、県立図書館と県立高等学校図書館の若手司書 18 名の自己紹介という形式で展示ページを作成しました。展示ページでは、それぞれ一人ずつ、以下 4 つの内容を掲載しました。

「司書を志望した理由」

「現在の仕事の具体的な内容とやりがい」

「今までの仕事で印象に残っていること、大変だったこと、嬉しかったこと」

「私の図書館・担当 自慢の 1 枚! (写真)」

司書を志望した理由では、小さいころから本や図書館が好きだったという人が、やはり多かったです。しかし、図書館で働こうとは思っていなかった人や、民間企業に就職してから退職し、図書館に就職したという人も多くおり、様々な経験を持った人たちが司書となり図書館で働いています。また、司書は「狭き門」、「受験するなら埼玉県しかない」という言葉もありました。残念ながら司書の採用数は全国的に限られています。

そのような中、埼玉県は多くの司書を採用しているため、司書を志す全国津々浦々の方々が、試験を受けています。

仕事の内容では、まず、県立図書館と県立高等学校図書館では仕事内容が大きく異なります。おおまかに、県立図書館では、それぞれ担当に分かれており、その担当業務を集中的に行い、県立高等学校図書館では、司書が一人なので幅広い業務を行います。具体的な業務内容は、本の貸出・返却や、書架整理、レファレンスサービス（図書館の資料を使い、皆様の調べものをサポートすること）、選書（所蔵する資料を選定すること）、発注、受入、装備（バーコードを貼ったり、フィルムコーティング等を行うこと）などや、講座・研修会・展示等の企画・広報・運営、授業連携など、様々な内容があることをお分かりいただけたのではないのでしょうか。



松田 康佑

平成25年度	県立鴻巣図書館	産業資料担当【採用】
平成27年度	県立熊谷図書館	人文科学資料担当（現 人文・社会科学資料担当）
平成31年度	県立熊谷図書館	資料収集・整理担当【現所属】

「司書を志望した理由」

もともと行政に携わる仕事に興味があり、行政職に就きたいと思っていました。特に図書館は小さい頃から定期的に図書館に通っており一番身近な公共施設だったので、図書館に勤めたいとは思っていました。ただ職口がとてつもないことを知っていたので、最初はそれほど強く志望してはいませんでした。

大学で司書課程を受講したのは、司書を目標としてというよりは図書館についての知識を身に付けたいという気持ちからだったのですが、自分の知らなかった図書館の理念や業務を知るようになり、司書として働きたいと思うようになりました。

※展示ページ

展示を御覧になられた方からは「顔が見えるだけで断然に図書館が身近になる」などの感想をいただきました。

この展示を通じて「司書ってそうなんだ」「司書に相談してみようかな」「司書になりたい」と思ってくださった方がいましたら嬉しい限りです。

（記録：埼玉県立熊谷図書館 相馬 一行）

大学図書館部会による展示

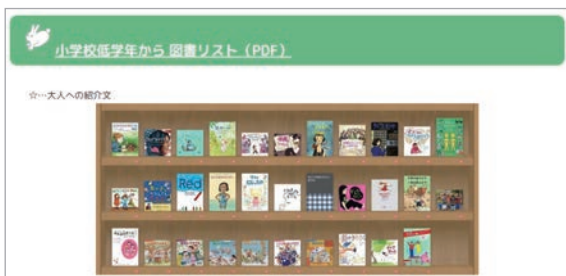
SALA 所蔵資料などを紹介

■国立女性教育会館

＜SDGs ゴール5『ジェンダー平等』を学んでみよう 子ども向け図書案内＞

男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館「女性教育情報センター」では、専門的な資料のほか子ども向けの図書や絵本も所蔵しています。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）のゴール5は「ジェンダー平等を実現しよう」です。WEB展示にあたり、当館所蔵資料からジェンダー平等について学べる図書、絵本を小学校低学年向け、高学年向けに選びました。図書リストやブックログの本棚を作成し、「じぶんらしく生きる」、「道をきりひらいた女性たち」などテーマごとにピックアップして紹介しました。



小学校低学年向け本棚



小学校高学年向け図書紹介

（記録：国立女性教育会館 星野 咲希）

■城西大学

＜学生アドバイザー vs 図書館職員

～水田記念図書館活動紹介～＞

本学図書館は建学の精神である「学問による人間形成」からなる学長メッセージ“協創”をもとに、学生アドバイザーと図書館職員が様々な活動をしています。

今回の展示ではそれぞれの活動内容をジャンルごとに散りばめたリンク先から楽しんでいただけるよう工夫をしました。オンデマンドビブリオバトルでは学生アドバイザーと図書館職員各2名のバトラーによる発表を動画でご覧いただきました。展示のコーナーでは、学生アドバイザーからは「オンライングループワーク体験会」やお正月・七夕などのイベントに絡めての展示をご紹介します。図書館職員からは二次元コードから電子ブックがその場で読める「ブックハント2021」の展示やマンガと関連本をつなげる「マンガから広がる読書の世界」をご紹介します。また、学生アドバイザーのメイン業務である学習相談については、大学院生による研究経験を生かした対応事例をご紹介します。

学生のライフスタイルに合わせて大学図書館の取り組みも変化し続けています。オンライン開催への参加で多くの方にご覧いただけましたことは貴重な機会となりました。



（記録：城西大学 関口 千登世）

■聖学院大学

＜新聞でタイムトラベル＞

2021 年は、国内で日本語の日刊紙「横浜毎日新聞」が誕生した 1871 年から 150 年目にあたる年でした。現在では、ニュースをネット上で手軽に読むことができ新聞の購読率は、年々減少しています。しかし、ネットニュースの情報源も新聞社から提供されたものが多数あります。私たちが生活するうえで「新聞」は、重要な情報源と言えます。

大学図書館には、主要五紙をはじめとして紙媒体の新聞だけでなく、色々な媒体で新聞記事を読むことができます。今回の WEB 展示では、本館で所蔵しておりますマイクロフィルム資料、書籍、新聞データベースを利用して、江戸時代の新聞の始まりである瓦版から明治時代の錦絵新聞、さらに明治、大正、昭和、平成、令和とそれぞれの時代の新聞記事でタイムトラベルを楽しんでいただきました。2021 年東京オリンピック開催に関連し、日本人が初めてオリンピックで優勝した記事や、上野動物園で双子のパンダ誕生をうけ、パンダ初来園の記事、NHK 大河ドラマの渋沢栄一関連記事、夏目漱石の記事などを掲載しました。また、明治初期の新聞広告を見て、会社名をあてるクイズも掲載し、ご好評いただきました。



（記録：聖学院大学 飯田 秀美）

■大東文化大学 60 周年記念図書館

＜中村屋のボースーインドカーリーと革命ー＞

不思議なご縁で本学図書館に寄贈された「ラース・ビハーリー・ボース関係資料」を WEB 展示で紹介しました。

ラース・ビハーリー・ボース (1886-1945) は祖国インドをイギリス支配から解放するため独立革命闘争を展開した人物です。インド国民の困窮を憂い、暗殺や反乱を計画したことでイギリス政府から懸賞金をかけられ追われる身となり、ついに日本へ亡命しますが、日本に来てからもアジア主義者の頭山満などから協力を取り付けて、インド独立のため活動を続けました。実はボースが本格インドカーリーを日本に伝えたのですが、あまり知られてないエピソードです。

そんなボースについて、独立革命家の顔だけではなく、日本に帰化したひとりの人間としての素顔を、ご家族から寄贈いただいた写真や手紙から感じ取っていただければ、と思い企画しました。

展示資料の中には、「桜を見る会」の招待状や、日本語を勉強するために使った教科書、犬養毅と写っている写真など当時の社会情勢を知ることができる資料が多くあり、研究資料としても貴重なものです。

写真はボースが大東文化大学の前身である大東文化学院で講演をした時のものです。



（記録：大東文化大学 中島 裕子）

■山村学園短期大学

<あそんでまなぶ ほいくのくうかん>

保育士・幼稚園教諭を養成する短期大学の小さな図書館です。今年のWEB展示では、他大学図書館とは異なる、以下のような独特な図書館の様子を写真でご紹介しました。

鳩山町の自然豊かな環境の中、窓外に四季折々の自然を感じられる「森の図書館」です。

学科では、「あそんでまなぶ」をモットーに逞しい保育者を養成しており、図書館も学生の学びを支援するため、授業・実習・ボランティアで多く利用される専門書・絵本・紙芝居・雑誌等を所蔵しています。ペープサート等一部先輩の作品の閲覧も人気です。学生の参考になるようにと館内の季節装飾の材料に木の実や枝葉を使用しています。

館内は絨毯敷きで、入口でスリッパに履き替えます。絵本コーナーの床（絨毯）に座り込み布絵本・仕掛け絵本や大型絵本を広げるなど、癒しの空間でもあります。



写真は、一昨年の学園祭で、学生たちが館内のミニステージで子どもたちに紙芝居や絵本の読み聞かせを行っているところです。学生にとっても良い学びとなりました。学園祭では学生の作品の展示も館内でしています。

主なテーマ展示：世界の絵本、渋沢栄一、フィンランド、先生のお薦め本、SDGs他

（記録：山村学園短期大学 品川 今日子）

SALA 加盟館からは5機関が参加し、各機関がイラストや写真、動画を活用するなど趣向をこらした展示を公開し、ご覧いただきました。

各機関の「テーマ」と「バナー画像」



国立女性教育会館
SDGs ゴール5『ジェンダー平等』を学んでみよう
子ども向け図書案内



城西大学
学生アドバイザー vs 図書館職員
～水田記念図書館活動紹介～



聖学院大学
新聞でタイムトラベル マイクロフィルムを使ってみよう



大東文化大学
中村屋のボース —インドカーリーと革命—

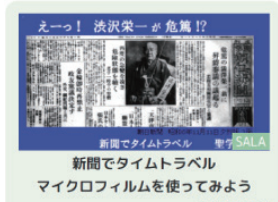
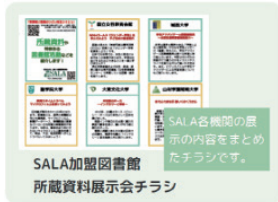
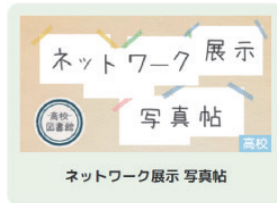
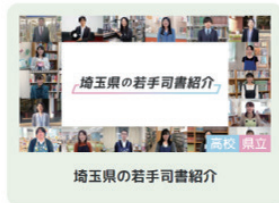


山村学園短期大学
あそんでまなぶ ほいくのくうかん

*SALA 参加機関名・五十音順

（記録：跡見学園女子大学 橋本 麻美）

WEB 展示まとめ



左の画像が、WEB展示のバナー一覧です。公共図書館部会、高校図書館部会、大学図書館部会及び協賛企業3展示の計17展示となりました。12月11日から1月10日まで公開し、ページ表示回数は、計6,507回でした。

それぞれの展示が、ただ文字が単調に並ぶだけの面白味のない展示とならないよう、様々な工夫をこらし大変充実した内容になりました。具体的には、「ネットワーク展示 写真帖」では、計40点の展示写真が次々と入れ替わるアルバム形式で紹介しました。「新聞でタイムトラベル マイクロフィルムを使ってみよう」では、豊富な内容に加え、クリックすると答えが表示されるクイズ形式など遊び心も取り入れました。

現地開催の臨場感や参加者の方と司書のふれあいが少ないというオンライン開催のデメリットもありましたが、「公開期間中、都合のいい時間・場所で楽しめる」「時間をかけてじっくりと見ることが出来る」というオンライン開催ならではのメリットが活かされたイベントになったかと思えます。(記録：埼玉県立熊谷図書館 相馬 一行)

協賛企業・プレゼント

株式会社伊藤伊様、キハラ株式会社様、埼玉新聞社様、社会福祉法人埼玉福祉会様、ネットギャラリー様から協賛いただきました。改めてお礼申し上げます。各社様からグッズのプレゼントと、埼玉新聞社様からは、中学生のビブリオバトルのトロフィーをご提供いただきました。また、オリジナルグッズとしてトートバッグを作成し、協賛企業様の提供グッズとセットにし、応募者にプレゼントしました。



- 1：オリジナルトートバッグ
- 2：埼玉福祉会様（ブックコートフィルム、マウスパッド、しおり）
- 3：キハラ様（図書缶ばっち、図書館じしゃく、ライブラリーワッペン、ブックゼムクリップ）
- 4：ネットギャラリー様（クリアファイル、ボールペン）
- 5：伊藤伊様（ライブラリークロス、ほこりトリ、パリオシール）

後日配信

中学生のビブリオバトル、鈴木まもるさん講演会、及び伊吹有喜さん記念講演では、Live 配信に加えて後日配信も行いました。Zoomで録画された動画をそのまま配信するのではなく、少しでも見やすくなるよう、説明の追加、字幕の一部追加、音声の調整、画面分割等動画を編集しました。特に伊吹有喜さんの記念講演では、チャットで随時質問や感想を受け付ける形式でしたので、どのようにチャットを動画内に入れるか苦心しました。

後日配信は、講演される方の意向や作業量の問題もありますが、当日参加できない方も楽しめるというメリットが大きく、視聴された方の満足度も高かったです。（記録：埼玉県立熊谷図書館 相馬 一行）



伊吹有喜さん後日配信画面



中学生のビブリオバトル
後日配信画面

図書館と県民のつどい埼玉 2021 関係者名簿

(敬称略・順不同、所属は令和4年2月現在)

企画委員

- 天達 新一 (川越市立寺尾中学校、埼玉県学校図書館協議会)
- 橋本 麻美 (跡見学園女子大学、埼玉県大学・短期大学図書館協議会)
- 玉井 敦 (埼玉県立松伏高等学校、埼玉県高等学校図書館研究会)
- 山縣 睦子 (埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課)
- 小熊 ますみ (埼玉県立熊谷図書館)
- 高野 治子 (埼玉県立久喜図書館)

実行委員 ★: 企画・広報部会委員を兼任

○ こども読書活動交流集会

- 青木 さち子 (おはなしの会「虹」)
- 高田 陽子 (北本市子ども文庫連絡会)
- 米田 佳子 (トムの会)
- 大澤 尚美 (鴻巣よみきかせの会)
- 中村 涼子 (浦和子どもの本連絡会)
- ★高野 治子 (埼玉県立久喜図書館)
- 森 奈穂子 (埼玉県立久喜図書館)
- 須藤 ゆみ子 (埼玉県立久喜図書館)
- 家根本 ありか (埼玉県立久喜図書館)

○ 公共図書館部会

- ★小熊 ますみ (埼玉県立熊谷図書館)
- 小林 千草 (埼玉県立久喜図書館)
- 小林 栞 (埼玉県立熊谷図書館)
- 小柳 直士 (埼玉県立熊谷図書館)
- 松山 裕輝 (埼玉県立久喜図書館)

○ 高校図書館部会

- ★玉井 敦 (埼玉県立松伏高等学校)
- 尾澤 咲 (埼玉県立三郷工業技術高等学校)
- 田中 由美子 (埼玉県立越谷南高等学校)
- 南 佳奈子 (埼玉県立越谷北高等学校)
- 横山 史江 (埼玉県立草加高等学校)
- 加々美 祐江 (埼玉県立吉川美南高等学校)
- 東 直子 (埼玉県立草加東高等学校)
- 松本 貴子 (獨協埼玉中学高等学校)

○ 大学図書館部会

- ★橋本 麻美 (跡見学園女子大学)

○ ビブリオバトル実行委員会

- ★天達 新一 (川越市立寺尾中学校)
- ★木下 通子 (埼玉県立浦和第一女子高等学校)
- 須貝 俊 (埼玉県立熊谷図書館)
- 中山 浩二 (聖学院大学)
- 新井 直也 (埼玉県立小川高等学校)

特別協力

- WEB 展示 (埼玉県推奨図書) 協力 埼玉県県民生活部青少年課

スタッフ・協力

○ 公共図書館部会

大島 恵津子 (埼玉県立久喜図書館)

松田 康佑 (埼玉県立熊谷図書館)

大塚 智子 (埼玉県立熊谷図書館)

尾崎 栞 (埼玉県立久喜図書館)

久保田 崇子 (埼玉県立久喜図書館)

志賀 超督 (埼玉県立熊谷図書館)

○ 高校図書館部会

風早 聡子 (埼玉県立越谷西高等学校)

杉原 拓 (埼玉県立春日部東高等学校)

近藤 梨乃 (埼玉県立三郷北高等学校)

藺草 美奈 (埼玉県立不動岡高等学校)

志田 歩唯 (埼玉県立八潮南高等学校)

田島 奈津美 (埼玉県立草加南高等学校)

大串 絢美 (埼玉県立鷲宮高等学校)

管野 あかり (埼玉県立越生高等学校)

○ 大学図書館部会

星野 咲希 (国立女性教育会館)

飯田 秀美 (聖学院大学)

品川 今日子 (山村学園短期大学)

関口 千登世 (城西大学)

中島 裕子 (大東文化大学)

○ ビブリオバトル実行委員会

杉本 太志 (埼玉県立岩槻商業高等学校)

埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会

石井 宏明 (埼玉県教育局市町村支援部長)

小谷野 幸也 (埼玉県教育局市町村支援部参事兼生涯学習推進課長)

小林 裕一 (埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課副課長)

芋川 修 (埼玉県図書館協会会長・埼玉県立久喜図書館長)

高野 正晴 (埼玉県図書館協会理事長・埼玉県立熊谷図書館長)

○ 事務局スタッフ

(埼玉県立熊谷図書館)

平野 雄三

浮ヶ谷 守央

神原 陽子

相馬 一行

(埼玉県立久喜図書館)

上松 寿明

(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課)

星 庸子

「図書館と県民のつどい埼玉 2021」の開催に御協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

図書館と県民のつどい埼玉 2021 ーみんなが「図書館」でつながる日ー

- 趣旨
- 1 県内図書館の様々な活動を県民に紹介することで、図書館に対する県民の理解を深め、親しみを持ってもらう。
 - 2 県民との交流を通じて、より良い図書館サービスを考える契機とする。
 - 3 埼玉県内の子供読書活動に携わる方々や、公共図書館・大学図書館・高校図書館等の協働により実施することで、図書館に関わる連携を深める。

日時 Live 配信 : 2021年12月11日(土)、12日(日)

後日配信 : 2022年1月10日(月)まで

WEB展示 : 2021年12月11日(土)から2022年1月10日(月)まで

開催 オンライン開催

内容 司書が語る！ Live イベント

- ・公共図書館部会
- ・高校図書館部会

中学生のビブリオバトル

鈴木まもるさん講演会

「絵本と鳥の巣の不思議ー鳥の巣が教えてくれることー」

伊吹有喜さん記念講演

「『雲を紡ぐ』に込めた想いー人生に無駄な寄り道なしー」

司書が魅せる！ WEB 展示

- ・公共図書館部会
- ・高校図書館部会
- ・若手司書紹介
- ・大学図書館部会

後日配信

- ・中学生のビブリオバトル
- ・鈴木まもるさん講演会
- ・伊吹有喜さん記念講演

主催 埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会、埼玉県高等学校図書館研究会

後援 NHKさいたま放送局、FM NACK 5、テレ玉、公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部

協力 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA)、
公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部助成事業

協賛 株式会社伊藤伊、キハラ株式会社、埼玉新聞社、社会福祉法人埼玉福祉会、ネットギャラリー、
埼玉県芸術文化祭、埼玉まなびいプロジェクト

おうちで楽しむ
Zoom
オンライン
開催

図書館と県民のつどい埼玉

ーみんなが図書館でつながる日ー

2021 12/11・12 10:00-16:00

図書館と県民のつどい埼玉 www.sailib.net/tudoi2021

埼玉県内の図書館が大集合、年に一度の図書館まつり！どなたでもご参加できます。お気軽にご参加ください。

12/11・12 **参加無料** (県外の方もOK)

12/11 10:00-10:40 **高校図書館をのぞいてみよう その1**

12/11 12:30-13:10 **高校図書館をのぞいてみよう その2**

12/12 13:00-13:50 **司書はこの図書館の本、全部読んでいるんですか？**

12/12 14:00-14:50 **ぶらり、ゆったり、らいふらりー**

12/12 15:00-15:50 **全部見せます！パリアフリー資料**

12/11 11:00-12:20 **中学生のピリオバトル**

12/12 10:40-12:00 **伊吹有喜さん記念講演**

12/11 13:30-15:30 **鈴木まもるさん講演会**

1/10まで後日配信

図書館と県民のつどい埼玉 2021 イベント イベント申込 タイムテーブル WEB表示

図書館と県民のつどい埼玉

オンラインイベント！ **参加無料** (どなたでもOK)

2021 12/11・12 10:00-16:00

たくさんのご参加、ありがとうございました！

2021年度はオンラインのみでの開催です。会場でのイベントはありません。

「図書館と県民のつどい埼玉2021」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインにて開催します。会場での開催を楽しみにして下さっていた皆様、誠に申し訳ございません。

全面的なオンライン開催での実施は今回が初めてとなります。ぜひ、新しい「図書館と県民のつどい埼玉」をお楽しみいただけたいと思います。

図書館と県民のつどい埼玉とは

多くの方々から「本に興味をもっていたきたい」、「図書館について知っていたきたい」という思いから始まったイベントです。今年で15回目になります。

埼玉県内の市町村立図書館、県立図書館、高校図書館、大学図書館等が協力し、展示や講演、体験コーナー、作家の方の記念講演、ピリオバトルなど様々な催し物を行う、県内最大級の図書館イベントです。

※写真は、2019年に開催した時の様子です。

イベント

司書が語る！Liveイベント
12/11 10:00-10:40 (高校図書館)
12/11 12:30-13:10 (高校図書館)
12/12 13:00-13:50 (高校図書館)
12/12 14:00-14:50 (公立図書館)
12/12 15:00-15:50 (公立図書館)

埼玉県内の様々な図書館の司書が、Liveでお話します。質問や「こんなことが知りたい」などクイズも大歓迎！もちろん聞くだけの参加もOKです。

12/11 10:00-10:40 **高校図書館をのぞいてみよう その1**

12/11 12:30-13:10 **高校図書館をのぞいてみよう その2**

12/12 13:00-13:50 **司書はこの図書館の本、全部読んでいるんですか？**

12/12 14:00-14:50 **ぶらり、ゆったり、らいふらりー**

12/12 15:00-15:50 **全部見せます！パリアフリー資料**

中学生のピリオバトル
12/11 11:00-12:20

ピリオバトルとは、おすすめの本を持ち寄り、5分間で本を紹介し、一番読みたくなった本「チャンプ本」を参加者の投票で決定するという書評ゲームです。

伊吹有喜さん記念講演
12/12 10:40-12:00

「書を紡ぐ」に込めた想いー人生に無駄な寄り道なしー

鈴木まもるさん講演会
12/11 13:30-15:30

絵本と鳥の巣の不思議ー鳥の巣が教えてくれることー

年に一度、県内最大級の図書館イベント！

「図書館と県民のつどい埼玉」は、本に興味をもっていたきたい、図書館について知っていたきたいという思いから始まりました。今年で15回目になります。県内の市町村、県立、高校、大学等の図書館が協力し開催する、県内最大級の図書館イベントです。

2021年12月11日、12日 10:00-16:00

図書館と県民のつどい埼玉 <https://www.sailib.net/tudoi2021>

伊吹有喜さん記念講演
12月12日 10:40-12:00

鈴木まもるさん講演会
12月11日 13:30-15:30

中学生のピリオバトル
12月11日 11:00-12:20

司書が語る！Liveイベント

12月11日 10:00-10:40 高校図書館をのぞいてみよう その1
12月11日 12:30-13:10 高校図書館をのぞいてみよう その2
12月12日 13:00-13:50 司書はこの図書館の本、全部読んでいるんですか？
12月12日 14:00-14:50 ぶらり、ゆったり、らいふらりー
12月12日 15:00-15:50 全部見せます！パリアフリー資料

12月12日 10:40-12:00 伊吹有喜さん記念講演
12月11日 13:30-15:30 鈴木まもるさん講演会

左上：チラシ表及びポスター 左下：チラシ裏 右：ウェブサイト（トップページ一部）
デザイン・作成：埼玉県立熊谷図書館職員 ※第14回庁内広報コンクール（チラシ・ポスター部門）最優秀賞受賞



図書館と県民のつどい埼玉 2021

みんなが図書館でつながる日

記録集

令和4年3月発行

編集・発行 埼玉県図書館協会（埼玉県立熊谷図書館内）

〒360-0014 熊谷市箱田5-6-1 TEL 048-523-6291 FAX 048-523-6468